

令和6年度地域公共交通確保維持改善事業・事業(自己)評価について 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年11月20日

協議会名:	弥富市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	令和6年度地域公共交通確保維持事業のうち陸上交通(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	■基本理念 市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持 ■目的 ・平成21年7月に弥富市地域公共交通活性化協議会を発足し、平成22年3月に「弥富市地域公共交通総合連携計画」を策定し、平成22年6月21日より地域公共交通活性化・再生総合事業の計画事業として、通学・通勤・通院・買い物など市民生活のための移動手段の確保、公共交通空白地域の解消を目的として新たにコミュニティバスの実証運行を開始した。また、平成24年4月より地域公共交通活性化・再生総合事業の計画事業(経過措置)としての実証運行を終了し、本格運行へと移行した。平成28年3月には「弥富市地域公共交通網形成計画」を策定し、「市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持」という基本理念の下、まちづくり等の上位・関連計画と連携するとともに、地域特性や利用者特性に応じた継続的な改善を行い、使いやすく環境にもやさしい地域公共交通として確保・維持することを目的としている。 ・なお、令和3年3月に新計画として「弥富市地域公共交通計画」を策定した。 ■必要性 ・利用者総数は少ないものの本格運行開始以降増加傾向を維持しており、令和2年度の利用者実態調査等の結果では「利用者の約8割が65歳以上の高齢者で、買い物や通院、公共施設の利用目的の利用が多い」という特徴を把握されたことから、高齢者等交通弱者の交通手段確保として確保・維持していく必要がある。また、「弥富市地域公共交通計画」に基づき、今後も市内バス運行の改善・充実のため、ニーズに即したダイヤの見直し、隣接する自治体との連携等の検討を行い、あわせて地域公共交通確保維持事業により、鉄道や飛鳥公共交通バスなどの幹線に接続し、市民生活と地域を支えるフィーダー系統として確保・維持していくことが必要である。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年11月20日

協議会名: 弥富市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 令和6年度地域公共交通確保維持事業のうち陸上交通(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改善補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通(株)	弥富市内を巡回する3路線(北部ルート、東部ルート、南部ルート)を運行し、各ルートとも近鉄弥富駅やイオンタウン、総合福祉センター等の主要な施設にアクセスする。また、東部ルートは地域間幹線系統である飛島公共交通バス蟹江線と一部バス停を共有している。	<u>対応方針1 過去の計3回の社会実験の結果を踏まえた、市全体の公共交通網の再編検討</u> ⇒令和3年度以降、南部地域を対象に急行便の社会実験を2回、デマンド交通の社会実験を1回実施した。これらの計3回の社会実験結果を適切に評価・分析し、南部地域だけでなく、北部・東部地域を含めた市全体の公共交通網の再編検討を進めた。 <u>対応方針2 複数の施策との連携や様々な関係者との連携を意識した公共交通網の再編検討</u> ⇒利便性の確保と1人当たり運行経費や収支率の削減のため、既存の公共交通に限らない新たな公共交通施策の検討や、周辺市町村や地元企業等の様々な関係者との連携を意識した再編検討を進めた。 <u>対応方針3 継続した新規利用者の獲得と新規利用後の継続利用状況の確認</u> ⇒平成23年から継続し、第14回目となる無料お試し乗車券の配布を行った。無料お試し乗車券では例年通り新規利用者数を把握するとともに、別途バス利用者アンケート調査を実施し、無料お試し乗車券をきっかけできんちゃんバスを利用するようになった人を把握した。	A 計画通り、弥富市内を巡回するきんちゃんバス3路線の運行を維持した。また、地域公共交通活性化協議会にて過去に実施した計3回の社会実験結果を評価・分析し、社会実験の結果を踏まえた市内全体の公共交通網について再編案を検討した。再編案を検討する際には飛島公共交通バスとの接続や地元企業の従業員シャトルバスとの連携可能性等を念頭に置き、複合的な検討を進めた。さらに、無料お試し乗車券では新規利用者を78人獲得することができ、別途実施したバス利用者アンケート調査では20人の人が無料お試し乗車券をきっかけにきんちゃんバスを利用していると回答した。	目標①: 使いやすい地域公共交通網の形成による利用者数の維持・増加 【全体目標値】令和6年度: 9.7万人 【予測値】令和6年度: 7.7万人(未達成) 【南部目標値】令和6年度: 3.5万人 【予測値】令和6年度: 4.0万人(達成) 【北部目標値】令和6年度: 4.3万人 【予測値】令和6年度: 2.8万人(未達成) 【東部目標値】令和6年度: 1.9万人 【予測値】令和6年度: 0.9万人(未達成) B ⇒温浴施設利用が多い東部ルート、買い物利用が多い北部ルートだが、新型コロナによる生活様式の変容の影響で伸び悩み、新型コロナ前の水準まで回復していない。ただし、通勤・通学利用の多い南部ルートは、令和5年3月末より高校生を対象としたコミュニティバス運営助成定期券交付事業を開始したこともあり、新型コロナ前の水準を大きく上回り、計画の目標値に対しても大きく上回っている。 ※令和6年度の数値: 令和6年4月から令和6年10月までの実績に基づく傾向が年度末まで続いた場合の予測値	①地域特性や地域による需要の違いを踏まえた、市全体の公共交通網の再編検討 ◆利便性を確保しつつ1人当たり運行経費を削減することを目指し、バス以外の交通モードの運行も見据えた、地域の需要に見合う再編方法を検討する ◆地域の需要に合った公共交通網の再編を検討するため、住民意見交換会を開催することで潜在的な需要を把握する ②継続的な利用促進活動の推進と公共交通施策の周知 ◆無料お試し乗車券の継続的な実施によって、外出機会の創出するとともに公共交通の利用を促進する ◆アンケート調査や広報、HP、意見交換会などの住民との接点を活用し、バスルートやダイヤの見直し、運賃改定等の利用者にとって有益な情報を周知することで、公共交通の利用を促進する
				目標②: 利用促進策の展開等による新規利用者の獲得 【目標値】毎年80人以上 【実績】78人(未達成) ⇒お試し乗車券78人 ⇒昨年度と同程度の期間、無料お試し乗車券を実施 ⇒目標値に近い新規利用者を獲得しているが、昨年度に比べて新規利用者数が減少(R5年度: 108人) B ⇒昨年度までの無料お試し乗車券の配布結果では、新規利用者のうち、3〜4割は小学生の利用が占めていた。(R5年度: 29.6%、R4年度: 40.7%) ⇒R5.10〜小中学生の運賃が無料となり、小学生が無料お試し乗車券の利用対象から外れた関係で、小学生の新規利用者を把握できていないことから数的に新規利用者が減少したことが考えられる。	
				目標③: 利用者1人当たり運行経費の削減による持続性の確保 【目標値】令和7年度における利用者1人当たり運行経費: 1,000円/人以上 【予測値】1,349円/人(未達成) C ⇒人件費の増加に伴う運行経費の増加と利用者の伸び悩みが大きく影響 ※運行経費は令和6年度の予算をもとにした、きんちゃんバスの運行経費 ※利用者数は令和6年4月から令和6年10月までの実績に基づく傾向が年度末まで続いた場合の予測値	
				目標④: 収支率の改善による持続性の確保 【目標値】令和7年度における収支率: 6.0%以上 【実績】5.2%(未達成) B ⇒人件費の増加に伴う運行経費の増加と利用者の伸び悩みが大きく影響 ⇒昨年度実績に比べて収支率が高くなり目標値に近づいている(昨年度実績: 4.9%) ※令和5年度の実績(決算書より)	
				目標⑤: 住民意見交換会の実施による地域公共交通を創り、支える環境の形成 【目標値】令和7年度までの意見交換会の開催数: 2回以上 【実績】計10回(達成) A ⇒令和3年度: 2回 令和4年度: 2回 令和5年度: 0回 令和6年度: 6回	

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

弥富市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和6年4月～令和6年10月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
目標①：使いやすい地域公共交通網の形成による利用者数の維持・増加 【全体目標値】 令和6年度：9.7万人 【南部目標値】 令和6年度：3.5万人 【北部目標値】 令和6年度：4.3万人 【東部目標値】 令和6年度：1.9万人	①サイクル&バスライド駐輪場・駐車場の設置 ②高齢者や障がい者等への料金負担軽減策の実施 ③定期券、回数券等の販売 ④バス相互の乗継券の発行 ⑤分かりやすい時刻表の作成、配布 ⑥ポケット時刻表の作成、配布 ⑦広報誌や市ホームページ等多様な媒体による情報提供 ⑧無料お試し乗車券の配布等	①きんちゃんバス利用実績からの予測	【全体（予測値）】 7.7万人（未達成） 【南部（予測値）】 4.0万人（達成） 【北部（予測値）】 2.8万人（未達成） 【東部（予測値）】 0.9万人（未達成） ⇒温浴施設利用が多い東部ルート、買い物利用が多い北部ルートだが、新型コロナによる生活様式の変容の影響で伸び悩み、新型コロナ前の水準まで回復していない。ただし、通勤・通学利用の多い南部ルートは、令和5年3月末より高校生を対象としたコミュニティバス運賃助成定期券交付事業を開始したこともあり、新型コロナ前の水準を大きく上回り、計画の目標値に対しても大きく上回っている。 ※令和6年度の数値：令和6年4月から令和6年10月までの実績に基づく傾向が年度末まで続いた場合の予測値	①地域特性や地域による需要の違いを踏まえた、市全体の公共交通網の再編検討 ・利便性を確保しつつ1人当たり運行経費を削減することを目指し、バス以外の交通モードの運行も見据えた、地域の需要に見合う再編方法を検討する ・地域の需要に合った公共交通網の再編を検討するため、住民意見交換会を開催することで潜在的な需要を把握する ②継続的な利用促進活動の推進と公共交通施策の周知 ・無料お試し乗車券の継続的な実施によって、外出機会の創出するとともに公共交通の利用を促進する ・アンケート調査や広報、HP、意見交換会などの住民との接点を活用し、バスルートやダイヤの見直し、運賃改定等の利用者にとって有益な情報を周知することで、公共交通の利用を促進する	
目標②：利用促進策の展開等による新規利用者の獲得 【目標値】 毎年80人以上	①無料お試し乗車券の配布	①無料お試し乗車券のアンケート結果	【実績】 78人（未達成） ⇒お試し乗車券78人 ⇒昨年度と同程度の期間、無料お試し乗車券を実施 ⇒目標値に近い新規利用者を獲得しているが、昨年度に比べて新規利用者数が減少（R5年度：108人） ⇒昨年度までの無料お試し乗車券の配布結果では、新規利用者のうち、3～4割は小学生の利用が占めていた。（R5年度：29.6%、R4年度：40.7%） ⇒R5.10～小中学生の運賃が無料となり、小学生が無料お試し乗車券の利用対象から外れた関係で、小学生の新規利用者を把握できていないことから数字的に新規利用者が減少したことが考えられる。	①無料お試し乗車券の継続的な実施 ②運賃が無料の利用者に対する利用促進策の検討・実施 ③意見交換会や各種団体の会合、その他市民の方々が集まる場等における、公共交通施策の周知活動展開	
目標③：利用者1人当たり運行経費の削減による持続性の確保 【目標値】 令和7年度における利用者1人当たり運行経費：1,000円/人以下	①運行経費の維持と利用者増による利用者1人当たり運行経費削減	①令和6年度運行経費 ②きんちゃんバス利用実績からの予測	【実績】 1,349円/人（未達成） ⇒人件費の増加に伴う運行経費の増加と利用者の伸び悩みが大きく影響 ※運行経費は令和6年度の予算をもとにした、きんちゃんバスの運行経費 ※利用者数は令和6年4月から令和6年10月までの実績に基づく傾向が年度末まで続いた場合の予測値	目標①に同じ ※現在の運行経費の維持を基本とした再編の検討	令和7年度の目標 毎年経過評価を実施
目標④：収支率の改善による持続性の確保 【目標値】 令和7年度における収支率：6.0%以上	①運行経費の維持と利用者増による収支率改善	令和5年度決算	【実績】 5.2%（未達成） ⇒人件費の増加に伴う運行経費の増加と利用者の伸び悩みが大きく影響 ⇒昨年度実績に比べて収支率が高くなり目標値に近づいている（昨年度実績：4.9%） ※令和5年度の実績（決算書より）	目標①に同じ ※現在の運行経費の維持を基本とした再編の検討	令和7年度の目標 毎年経過評価を実施
目標⑤：住民意見交換会の実施による地域公共交通を創り、支える環境の形成 【目標値】 令和7年度までの意見交換会の開催数：2回以上	①社会実験運行や再編検討に係る意見交換会開催	開催実績	【実績】 計10回（達成） ⇒令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：0回 令和6年度：6回	①今後の公共交通網の再編に向け意見交換会を継続的に実施	令和3年度～令和7年度の目標 毎年経過評価を実施

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

弥富市地域公共交通活性化協議会 (弥富市)

平成21年7月10日設置

令和3年3月 弥富市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和3年度～令和7年度)

令和6年6月25日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和6年●月●●日 令和6年度評価結果送付

1.【Plan】協議会等を目指す地域公共交通の姿

弥富市の概要

人口：43,544人 ※令和6年10月1日時点

公共交通の現況：北部地域を近鉄名古屋線とJR関西本線、名鉄尾西線が通っており、市内には計4つの駅（近鉄弥富駅、JR弥富駅、佐古木駅、五ノ三駅）が立地している。また、三重交通の路線バスが2路線、市内全域を運行するコミュニティバス「きんちゃんバス」が3路線運行している。

計画策定の背景

まちづくりと連携した地域公共交通の確保・維持・改善に向けた事業を推進し、持続可能で利便性の高い地域公共交通網を展開するため

弥富市地域公共交通計画

○計画期間

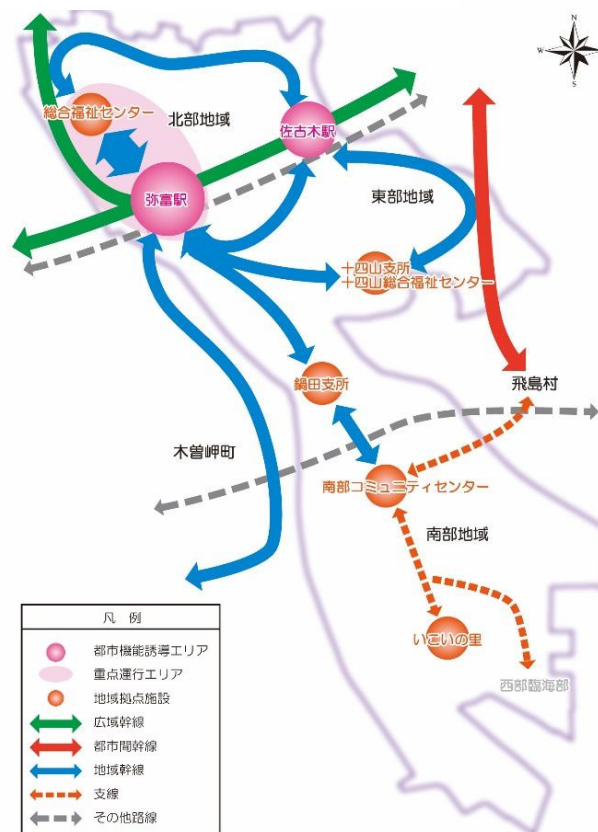
令和3年度～令和7年度（5年間）

○基本理念

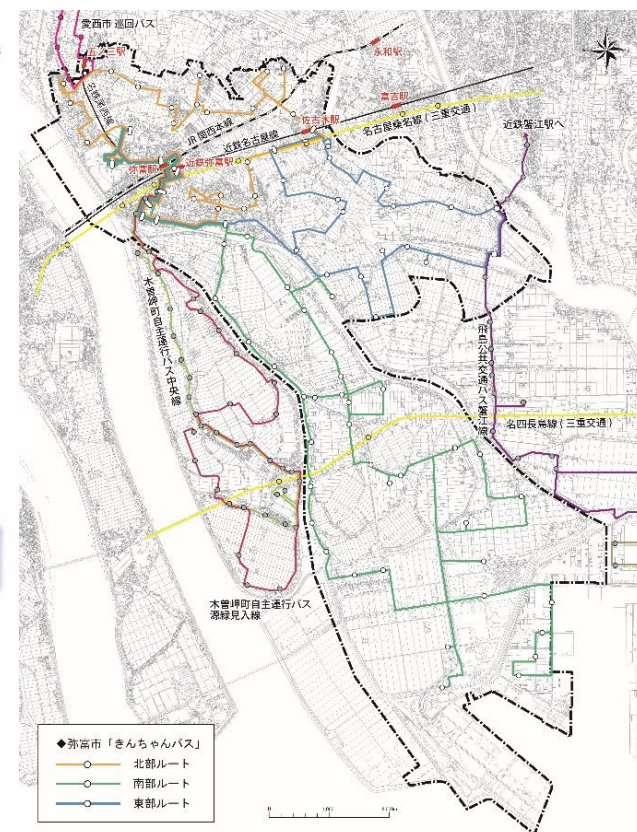
市民生活と地域を支える
持続可能な地域公共交通
の確保・維持

- ・基本方針1：地域特性や利用特性に応じた使いやすい地域公共交通網の形成
- ・基本方針2：継続的な利用促進策等の取り組みの展開による地域公共交通の維持・活性化
- ・基本方針3：地域や行政、交通事業者等が協働・連携し、持続可能な地域公共交通を創り、支える環境の形成

地域公共交通の展開イメージ



現在の地域公共交通網



2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

主な取り組み内容

○きんちゃんバスルート・ダイヤの見直しとわかりやすい時刻表の作成・配布（実施主体：市）

⇒地域からの要望や利用実績等を考慮し、市内のきんちゃんバスルートの見直しを実施

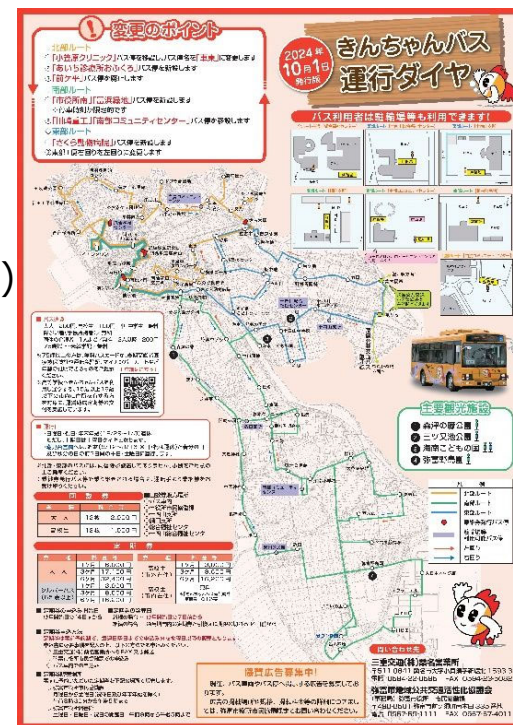
⇒見直し内容が分かりやすい時刻表・ダイヤを作成し、各戸配布（1,8000戸）

○福祉施策と連携した買い物支援サービスの展開（実施主体：市）

⇒弥富市ささえあいセンター利用会員を対象に、自宅と店舗との往復の移動と買い物をセットにして支援する「買い物支援サービス」を令和3年4月から本格運行開始し、令和6年度も継続して実施

- ・輸送人員：14人
- ・運送回数：188回

※令和5年4月から令和6年3月までの実績



○コミュニティバス運賃助成定期券交付事業の継続実施（実施主体：市、交通事業者）

⇒令和5年3月末より、きんちゃんバスの利用促進と保護者の経済的負担軽減を図るため、市内在住の高校生に対し、コミュニティバス運賃助成定期券の交付を開始し、令和6年度も継続して実施

・申請数：61件　・利用者数：2,649人　※令和6年4月から令和6年10月末までの実績

○無料お試し乗車券による新規利用者の掘り起こし（実施主体：市、交通事業者）

⇒市内全世帯及び小学生に配布し、利用期間は親子での継続的な利用機会の創出のほか、新型コロナウイルスでの生活様式の変容も想定し、外出機会を創出できるように、夏休み期間を含む7月中旬から9月末までの約2か月間に設定（新規利用者78名）

※その他主な取り組み

- ・75歳以上への無料パスカード配布　・65歳以上へのシルバーパスの販売
- ・福祉タクシー料金助成事業の実施



3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

基本理念・基本方針に対応した目標・指標を設定

基本理念	市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持		
基本方針	基本方針1:地域特性や利用特性に応じた使いやすい地域公共交通網の形成	基本方針2:継続的な利用促進策等の取組みの展開による地域公共交通の維持・活性化	基本方針3:地域や行政、交通事業者等が協働・連携し、持続可能な地域公共交通を創り、支える環境の形成
目標①	○	○	
目標②	○	○	
目標③	○	○	
目標④	○	○	
目標⑤			○

目標①：使いやすい地域公共交通網の形成による利用者数の維持・増加（未達成）

年度：4月-翌年3月		令和元年度 (基準年)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (実績値)	令和5年度 (実績値)	令和6年度	令和7年度
全 体	目標	－	8.5万人	8.8万人	9.1万人	9.4万人	9.7万人	10.0万人
	実績	8.3万人	6.2万人	6.6万人	7.9万人	7.9万人	7.7万人	
南部ルート	目標	－	3.5万人	3.5万人	3.5万人	3.5万人	3.5万人	3.5万人
	実績	3.6万人	2.9万人	3.0万人	3.6万人	4.2万人	4.0万人	
北部ルート	目標	－	3.5万人	3.7万人	3.9万人	4.1万人	4.3万人	4.5万人
	実績	3.3万人	2.4万人	2.3万人	2.6万人	2.6万人	2.8万人	
東部ルート	目標	－	1.5万人	1.6万人	1.7万人	1.8万人	1.9万人	2.0万人
	実績	1.4万人	0.9万人	0.8万人	0.9万人	1.0万人	0.9万人	

※令和6年度は10月までの実績に基づく傾向が年度末まで続いた場合の予測値

⇒全体の利用者数は前年度より少なくなる予測で、新型コロナによる生活様式の変容の影響で伸び悩み、新型コロナ前の水準まで回復していない

⇒ルート別では北部・東部ルートは新型コロナ前の水準まで回復していないが、通勤・通学利用の多い南部ルートは、新型コロナ前の水準を大きく上回り、計画の目標値に対しても大きく上回っている。

令和6年度の前年度比（増減率）

全体：3%減予想

◆南部：6%減予想
(通勤通学・買い物中心)

◆北部：7%増予想
(高齢者約8割で買い物中心)

◆東部：12%減予想
(高齢者約8割で温浴施設中心)

※（ ）内は各ルートの利用特性

今後の方針①

- ・地域特性や地域による需要を踏まえた新たな社会実験運行などの実施による利便性の確保・向上
- ・市全体の具体的な公共交通網の再編案の検討
- ・継続的な利用促進活動の推進による外出機会の創出

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

目標②：利用促進策の展開等による新規利用者の獲得（未達成）

	目標	無料お試し乗車券
新規利用者	毎年80人以上	78人

⇒昨年度と同程度の期間、無料お試し乗車券を実施
⇒R5.10～小中学生の運賃が無料となり、小学生が無料お試し乗車券の利用対象から外れた関係で、小学生の新規利用者を把握できていないことから数字的に新規利用者が減少したことが考えられる

今後の方針②

- ・無料お試し乗車券の継続的な実施
- ・運賃が無料の利用者に対する利用促進策の検討・実施
- ・意見交換会や各種団体の会合、その他市民の方々が集まる場等における公共交通施策の周知活動展開

目標③：利用者1人当たり運行経費の削減による持続性の確保（未達成）

目標④：収支率の改善による持続性の確保（未達成）

	目標（令和7年度）	令和元年度（基準年）	令和6年度（評価年）
利用者1人あたりの運行経費	1,000円/人以下	1,109円/人	1,349円/人
収支率	6.0%以上	5.3%	5.2%

⇒人件費の増加に伴う運行経費の増加と利用者の伸び悩みが大きく影響

※利用の7割を占める75歳以上の市民全員に無料パスカードを配布している

※令和5年10月から小中学生と障がい者とその介助者の運賃を無料にしている

※運行経費は令和5年度の予算をもとにした、きんちゃんバスの運行経費

※利用者数は令和6年4月から令和6年10月までの実績に基づく傾向が年度末まで続いた場合の予測値

※収支率は令和5年度の実績

今後の方針③④

- ・現在の運行経費の維持を基本とした公共交通網の再編を検討

目標⑤：住民意見交換会の実施による地域公共交通を創り、支える環境の形成（達成）

	目標（令和7年度まで）	累計実績
意見交換会	2回以上	10回

⇒令和3年度以降、各地域において、社会実験運行や再編検討に係る意見交換会開催

- ・令和3年度：2回
- ・令和4年度：2回
- ・令和5年度：0回
- ・令和6年度：6回

今後の方針⑤

- ・今後の公共交通網の再編に向け意見交換会を継続的に実施

4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針の作成

- 課題 ○新型コロナによる影響の回復後、バス利用者の伸び悩み・頭打ちが生じ、交通モードが地域の利用需要に見合っていない（特に温浴施設利用が多い東部ルートと買い物利用が多い北部ルート）
- 1人当たり運行経費の削減
- ⇒各地域の需要や特性に合った、バスに限らない公共交通の運行も見据えた公共交通網を検討する必要がある
- ⇒利便性を確保しつつ、効率的な運行が可能な運行体系を検討する必要がある
- ⇒継続的な利用促進と公共交通施策の周知によって、利用者を確保する必要がある

対応方針1 地域特性や地域による需要の違いを踏まえた、市全体の公共交通網の再編検討

- ◆ 利便性を確保しつつ1人当たり運行経費を削減することを目指し、バス以外の交通モードの運行も見据えた、地域の需要に見合う再編方法を検討する
- ◆ 地域の需要に合った公共交通網の再編を検討するため、住民意見交換会を開催することで潜在的な需要を把握する

対応方針2 継続的な利用促進活動の推進と公共交通施策の周知

- ◆ 無料お試し乗車券の継続的な実施によって、外出機会の創出するとともに公共交通の利用を促進する
- ◆ アンケート調査や広報、HP、意見交換会などの住民との接点を活用し、バスルートやダイヤの見直し、運賃改定等の利用者にとって有益な情報を周知することで、公共交通の利用を促進する

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	市内在住の高校生を対象としたコミュニティバス運賃助成定期券交付事業について、この取組をきっかけにして、保護者の送迎からバスによる通学への移行が進み、公共交通の利用促進や保護者の負担軽減につながったことを評価	令和6年度も市内在住の高校生を対象としたコミュニティバス運賃助成定期券交付事業を継続し、引き続き公共交通の利用促進や保護者の負担軽減を促進した。	公共交通の利用促進や保護者の負担軽減を促進に向け、引き続き、コミュニティバス運賃助成定期券交付事業を実施する。
	無料お試し乗車券の配布による新規利用者の掘り起こしや75歳以上の高齢者に対する無料パスカードの配布など、継続的にバスの利用促進に資する取組を行っていることを確認	令和6年度も無料お試し乗車券の配布と75歳以上の高齢者に対する無料パスカードの配布を継続し、引き続き新規利用者の掘り起こしや利用促進に努めた。	継続的な無料お試し乗車券の実施による、新規利用者の掘り起こしや利用促進
	公共交通網の再編に向けては、各施策との役割分担、広域移動を対象とした公共交通との接続など、連携を意識されながら検討を進められることを期待	再編検討において、飛島公共交通バスとの接続や地元企業の従業員シャトルバスとの連携可能性等の検討を進め、地域の輸送資源を総動員した複合的な公共交通網を目指す検討を進めた。	既存のバス路線に限らず、地域の輸送資源の活用や新たな交通手段の活用等を念頭に入れた再編検討を進める。
	お試し無料乗車券の配布により新規利用者の獲得につながったが、その後もバスを利用するといった行動変容につながっているかの検証に取り組まれることを期待	別途実施したバス利用者アンケート調査で、無料お試し乗車券をきっかけにバスを利用するようになった人の存在を把握した。	今後もアンケート調査を実施する際に、無料お試し乗車券による行動変容を確認し、取組みの効果をモニタリングする。

※前回：令和6年3月21日（結果通知）

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	期間限定の無料お試し乗車券を配布する事により、きんちゃんバスの利用促進を行ったことや、併せてアンケート調査を実施し、無料お試し乗車券の利用状況を確認している事を評価	・令和5年度も無料お試し乗車券の配布とアンケート調査を実施し、利用促進と利用実態の把握を継続	・外出機会の創出と公共交通の利用促進のため、無料お試し乗車券の継続的な実施
	第二期南部地域社会実験を行う事で、既存コミュニティバスの運行の補助を行い、その必要性の確認を行っている事を評価	・1期・2期の急行バス社会実験運行の結果を踏まえ、令和5年6月から令和5年11月の半年間でデマンド運行導入に向けた実証実験となる第3期社会実験運行を実施	・1期・2期の急行バス社会実験運行やデマンド運行導入に向けた実証実験である第3期社会実験運行の結果を踏まえ、住民説明会や協議会を通し具体的な再編案を検討
	これまでに行った無料お試し乗車券のアンケート結果に基づき、通常の運行の利用促進に繋げることを期待	・きんちゃんバスの利用促進と保護者の経済的負担軽減を図るため、令和5年3月末より高校生を対象としたコミュニティバス運賃助成定期券交付事業を開始	・高校生を対象としたコミュニティバス運賃助成定期券交付事業の継続と新たな利用促進策を検討
	第一期及び第二期の実証実験の結果に基づき、コミュニティバスに必要な路線や運行方法を検討し、既存の路線に対して必要な対応を行う事を期待	・1期・2期の急行バス社会実験運行の結果を踏まえ、第3期社会実験運行を実施し、南部地域の公共交通の再編案を検討	・第1期・2期・3期の社会実験運行の結果を踏まえた市全体の公共交通網の再編案を検討する。

※前々回：令和5年3月10日（結果通知）

6.計画・評価の推進体制

PDCAの推進体制やスケジュール

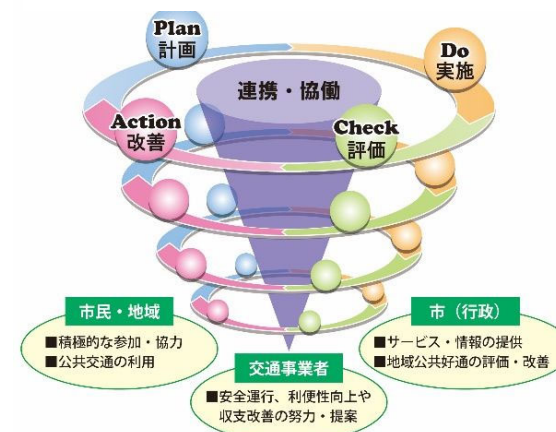
○地域公共交通を確保・維持・改善していくために、市民や公共交通事業者、市（行政）等の関係者が協働・連携し、計画の立案（Plan）・計画の実施（Do）・計画の評価（Check）・計画の改善（Action）を繰り返す

○毎年開催する「弥富市地域公共交通活性化協議会」において、“関連し実施する調査等”の結果や事業進捗状況等を基に評価するとともに、コロナ禍による影響も踏まえつつ、目標の達成状況や上位計画の改定内容を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことで推進する

PDCAの実施スケジュール（計画抜粋）

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
計画の立案 Plan	計画見直し					計画見直し
計画の実施 Do		事業実施				
計画の評価 Check	進捗・目標	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗・目標
計画の改善 Action					上位計画との整合性 事業内容・スケジュール等	
備考				弥富市総合計画 前期基本計画 目標年		

PDCAの推進体制（計画抜粋）



直近1年間の協議会スケジュールと主な協議・報告事項

協議会	令和6年3月22日 (令和5年度 第4回)	令和6年6月25日 (第1回)	令和6年7月10日 (第2回※書面)	令和6年11月20日 (第3回)
主な 協議・報告 事項	●第3期南部地域社会実験運行について ●令和6年度弥富市地域公共交通活性化協議会予算(案)及び事業計画(案)について	●令和5年度収支決算について ●令和7年度地域公共交通確保維持改善計画(案)について ●弥富市地域公共交通計画の見直しについて ●公共交通網の再編に向けて	●南部コミュニティセンターバス停の移設等について ●第1回弥富市地域公共交通活性化協議会 議題5について	●令和6年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価について ●市内の公共交通網の再編方針について ●住民意見交換会について ●無料お試し乗車券について